

IV-248 旧東京市市街地における橋詰広場の空間特性と利用実態

東京都立大学 工学部	学生員	伊東孝祐
東京都立大学 工学部	正 員	山川 仁
東京都立大学 工学部	正 員	秋山哲男

1. はじめに

旧東京市市街地において橋詰広場は、震災復興計画以降意図的に計画され設置されてきたが、昭和39年以降の都市計画の全面改訂により、新設されなくなり、既存の橋詰広場は減少傾向であった。しかし最近になって東京都内の史的価値のある著名橋を中心に橋詰広場の再整備が行われるようになり、都市の景観に少なからず影響を与えてきている。

そこで本研究では旧東京市市街地にある橋詰広場がどのような意味を持っているかを空間特性と利用実態から明らかにすることにより、橋詰広場の現況を把握し、特徴を考察することを目的とする。

2. 研究の方法

旧東京市市街地（旧神田区・旧日本橋区・旧京橋区・旧本所区・旧深川区）内にあるまたはあった橋詰広場1028箇所を調査対象とした。

調査として、現地へ赴き橋詰広場に関する空間特性を把握する方法として、物理量（面積、道路幅員など）の計測・利用状況の観察・広場内のスケッチなどを行った。さらにその結果から代表的な1地区について利用実態把握のためにアンケート調査地域を行い、橋詰広場周辺住民の利用状況・意識・今後のあり方について回答してもらった。

3. 橋詰広場の空間特性

(1) 橋詰広場の施設の史的変遷

江戸名所図会を見ると、橋詰広場は高札や露店、床見世などがあった江戸期は都市の要所的な所があった。明治期以降、上記の要素を継承しつつ植栽が施されたり、公衆便所、交番、機具納庫、材料置場、児童公園などの小規模な施設が設けられるようになった。近年橋詰広場の都市空間におけるオープンスペース性が見直され、ポケットパークなど水辺を意識した施設が設置されるようになってきた。

(2) 物理的特性

・橋詰広場の形状—橋詰広場の敷地は図1に示す5種類のタイプに分けることができた。橋梁の架け替え時の仮橋敷地としては台形のAタイプ（全体の27%）が最も有効であると思われるが、実際は長方形のCタイプ（全体の56%）が最も多かった。

・設置施設毎の1広場あたりの面積—児童公園が最も大きく177.1m²、交番が125.6m²、公衆便所が112.9m²、防災資材格納庫が99.2m²、ポケットパークが84.3m²で、植栽地が最も小さく72.4m²であった。設置数では植栽地が最も多く291箇所、公衆便所が52箇所、ポケットパークが48箇所、児童公園が41箇所、最も少ないのは交番の14箇所である。

・橋詰広場の分布—隅田川の東側に315箇所、西側に177箇所と東側の方に多く分布していた。

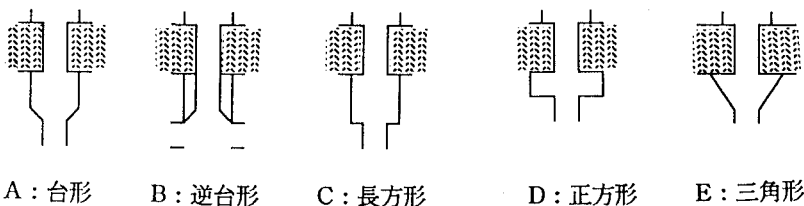


図-1 橋詰広場の大きさ

(3) 橋詰広場の類型とその特性

橋詰広場を数量化理論Ⅲ類により利用状況・広場面積・護岸の整備状況・土地利用等のアイテムを用いて分類を行った。Ⅰ軸は空間の量に起因するものであり、Ⅱ軸は緑の量に起因するものであった。その結果橋詰広場は3つのタイプに分類できた。

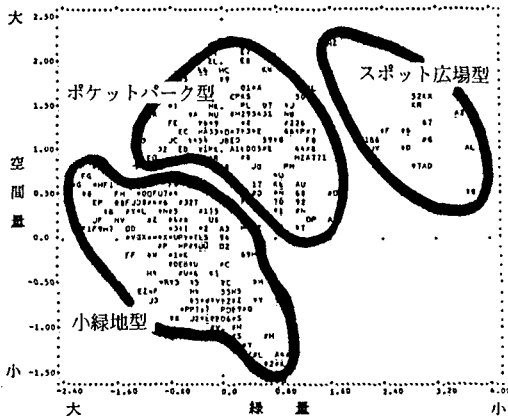


図-2 橋詰広場の分類結果

小緑地型: 橋詰の空間量は比較的小さいが緑の量(主として植栽)は多いタイプ

ポケットパーク型: 橋詰の空間量が比較的大きく緑の量は中間的なタイプである。利用状況として休憩に供されているものが多い。

スポット広場型: 緑の量が少なく、施設などの占有されていない空間が多いタイプである。都市においてスポット的な広場として存在し、その用途は多様である。

対象地区は公園や神社の境内、駅前広場、親水公園などの多様な広場が周辺にある、塩原橋周辺をアンケート調査地域として選定した。

4. 塩原橋橋詰広場の利用実態

(1) 利用状況

塩原橋は東京都の設定した『歴史と文化の散歩道』のコース上にあるため近年再整備されポケットパーク2箇所・植栽地・変電設備となり、ポケットパーク内には碑が設置されている。塩原橋周辺にお

いて約9割の人が橋詰広場を認知していたが、その内の約1割弱の人が週1回ぐらい散歩時の休憩場所として利用していた。しかしほとんどの人は橋詰広場よりは近くにある公園などを利用していた。

(2) 橋詰広場認知者の橋詰広場に対する評価

「きれい」、「すっきりした」、「眺めが良い」などの景観に関するイメージはプラス方向であるが、「活気がある」などの行動性に関してはマイナス方向であった。このことから塩原橋において橋詰広場は周辺地域に対して行動性ではあまり影響を与えないが、都市景観に与える影響は大きいと考えられる。

5. まとめ

- ① 旧東京市市街地における橋詰広場は、小緑地型、ポケットパーク型、スポット広場型の3種類に分類できた。
- ② ポケットパーク化された橋詰広場は休憩などに利用され、そのイメージは「きれい」、「すっきりとした」、「眺めが良い」などがプラス方向であることからポケットパーク化された橋詰広場には、都市景観を向上させる効果があると判断される。
- ③ 橋詰広場は隅田川の東側に多く分布し、面積は小さいが都市内の緑化に貢献しているが、現在の状況では面積的にも設置施設的にも魅力ある空間であるとは言えない。

< 参考文献 >

- 1) 伊東 孝: 東京の橋 水辺の都市空間、鹿島出版会、1986
- 2) 岡田 孝、伊東 孝: 震災復興橋梁の計画とデザイン的特徴、第4回日本土木史研究発表会論文集、1984